

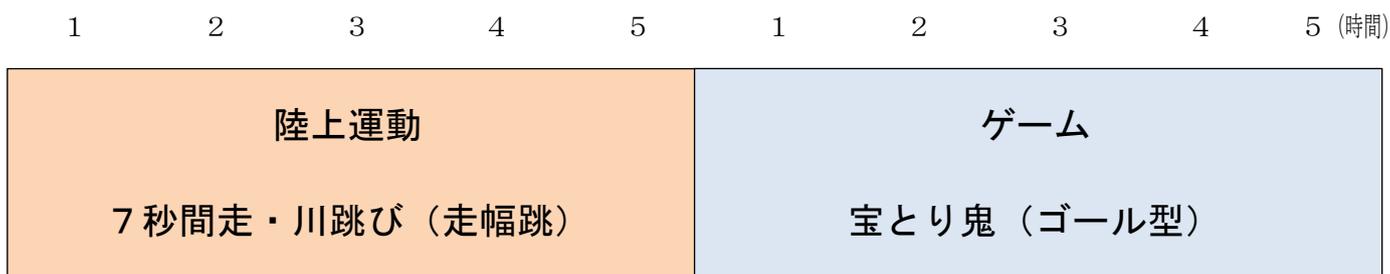
「前向きくん」「横向きくん」、川跳び（走幅跳）教具の活用

日田市立高瀬小学校 岩崎 敬

1. 「組み合わせ单元」

分散登校ではありますが、ようやく体育の授業も再開することができました。今後もいつどうなるか予断を許さない状況ということと、多くのことをさせてあげ、少しでも子どもたちのストレスを発散させてあげたいとの思いから、最初の授業は陸上運動とゲームの「組み合わせ单元」で行うことにしました。具体的に言うと、45分を前後半に分けて2種目の運動を行います。体育の授業の多くは、準備物の関係もあり1時間の45分は1種目行うようになっていますが、「組み合わせ单元」で1時間に2種目運動を行うと期間的に長くなり、短期間では習得できないような子も長期間の学習のため習得しやすいというメリットもあるようです。

<一般的な单元の配列例>



<「組み合わせ单元」の配列例>



2. 「横向きくん」と「前向きくん」の作成

以前から、子どもたちの思考を深める教具として「水泳くん」や「体育くん」と勝手に名付けた関節の動く横向きの模型を使って授業をしていましたが、今年度になって初めて、前から見た模型になる「前向きくん」と横から見た模型になる「横向きくん」の二つを作り授業を行いました。

運動のコツを表現する際に、「肘」「膝」「足の親指の付け根」というような体の部位の名称を子どもはあまり知りません。そのため模型を使って表現したり、模型で仮説を立てることは、短時間で学習効果を上げると考えています。



水泳くんを作りました





実際に扱ってみるとあれこれ考えます



そして外に出て自分の身体で実際にやってみる



答えが一つではない体育の授業

走る構えや守る構えは、自分なりの根拠をもとにいろいろ考えられていました

2. 川跳び（走幅跳）の授業

教具作りの好きな岩崎はコロナによる休校中にホームセンターで買った計り売りのブルーシートいくつかに切り川跳び（走幅跳）授業の準備をしていました。「教科書にあるから勉強します」「学習指導要領に載っているから教えます」では子どもの学習意欲は高まりません。どの子にとってもやってみたいという必然性を持たせることが授業作りの肝になると思っています。

そこで走幅跳の授業では「川跳び」に置き換え、様々な川幅を準備しました。この日はたまたま雨天のため体育館で授業を行うことになったため、砂場の代わりにマットを敷いて授業を行いました。



私が購入したブルーシートは、床の上で踏み切ってもグリップがよく全く滑りませんでした。



何故か後ろに下がる子どもたち

誰も「後ろから跳びなさい」「走ってきて跳びなさい」とは言っていないが、「どうしてそんなに後ろから走ってくるの?」「前からじゃダメなの?」とこちらから問い返すと、子どもの方から「いきおいが必要だから」と説明してくれます。

このようにして、子どものよい思考を追認させる場を仕組むことがあります。



こちらから教えなくても「力強い踏み切り」「両足着地」を自分で見つけて完成させている子もいました（3年生）

そしてこの教材の何より一番嬉しかったことは、子どもたちにとって必然的な学びになっていたのではないかとと思われることです。遠くに跳べる子、跳べない子に関わらず多くの子が走って戻り何度もチャレンジしていました。



子どもにとって 必然的＝主体的

どうやって学習教材を子どもの必然にしていくか どの子にとってもまた食べたい（学習したい）
と思わせる調理人（授業者）を目指しています